

平成２９年度第１回 草津市健康づくり推進協議会		
日時	平成２９年７月１３日（木）午後１時３０分～３時３０分	
会場	草津市役所 ４階 行政委員会室	
出席者	委員	樋上会長、肥塚副会長、深草委員、堀委員、吉川委員、池上委員、太田委員、義川委員、苗村委員、奥村委員、垣根委員、池藤委員、柴田委員、馬場委員、山本正行委員、安藤委員、高田委員、山本慶佑委員、喜田委員〔計１９名、順不同〕
	事務局	健康福祉部長・西典子、健康福祉部理事・富安知翔、健康福祉部副部長・小川薫子、健康増進課長・田中みどり、同課参事・奥谷幸生、小林淳子、古川郁子、同課専門員・田中亜紀、山岡道子、健康福祉政策課専門員・山田晋作、保険年金課長・田中歩
欠席者	委員	高嶋委員
会議資料		別添のとおり

次第１．健康福祉部長あいさつ

皆さんこんにちは。健康福祉部の西でございます。

皆様には、お忙しい中、第１回草津市健康づくり推進協議会に御出席を賜わりまして、ありがとうございます。また、委員の皆様におかれましては、本市の保健衛生行政に御理解、御協力を賜わりまして、改めてお礼申し上げます。

さて、草津市では、健康増進計画「健康くさつ２１（第２次）」に基づきまして、その基本理念の「誰もが健康で長生きできるまち草津」の実現に向けた取り組みを進めているところでございます。この計画は、今年度がちょうど中間評価を行う時期になっておりますことから、当協議会におきまして、当計画の中間評価に関しまして、御審議を賜りたいと考えておりますのでよろしくお願い申し上げます。

また、本市では、皆様に御審議をいただきます「健康くさつ２１（第２次）」をはじめといたしまして、健康福祉関連で１０の計画につきまして策定や見直しを今年度行います。これらの計画につきましては、本年３月に、草津市健康都市基本計画を策定しており、この基本方針を踏まえて、健康づくりの総合的な推進については健康くさつ２１を中心に、地域共生社会の実現につきましては、地域福祉計画を中心といたしまして、全体の整合を図りながら、各計画策定を進めてまいりたいと考えております。

委員の皆様におかれましては、このように全体像を踏まえつつ、今後の御審議を進めていただければと考えておりますのでよろしくお願い申し上げます。

さて、本日は、健康くさつ２１（第２次）の中間評価につきまして、過日、当協議会に設置しております健康増進計画推進部会において協議をされた内容をもとに、計画の数値目標、実施事業、課題などについて御意見を賜りたいと思います。

また、第３次草津市食育推進計画と糖尿病対策ガイドラインにつきましては、別に策定委員会を設けてございますので、その進捗状況を御報告させていただきたいと考えております。

委員の皆様には、限られた時間ではございますけれども、忌憚のない御意見をいただきますようお願いを申し上げます。開会の御挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願い申し上げます。

次第２．委員及び事務局の自己紹介

次第３．会議の位置づけについて事務局より説明

次第４．部会長、副部会長の選出

委員より事務局提案を求める声あり。事務局が樋上委員を会長に、肥塚委員を副会長に推薦し、一同了承。

(会長)

最初におわびしておきますが、本日は他の会議に出席するため、本日は、進行を副会長にお願いさせていただきたいと思います。申しわけございません。

最初に、健康で長生きをするためには、心の問題、生活習慣病、がんなどがなければ健康で長生きができるのではないかと思います。

統計によると、滋賀県は日本でもがんによる死亡率が低い地域です。湖南地域、草津、栗東、守山、野洲も統計的には似た死亡率です。病気で亡くなる方は、全国的に見ても低値で、確か、胃がんの男性は、日本で２番目に死亡率が低かったのではなかったかと思います。一番、死亡率が低かったのは長野県です。保健活動が盛んなこと、がん検診が非常に進んでいることがあげられます。６年連続青森県が一番悪く、青森県は、がんによる死亡率が高くて、その他秋田県とか東北地方、佐賀県が高い。ただし、これはあくまでも死亡率ですので、病気になって生活していく期間が決して短いわけではなく、一番良いことはがんにならない、糖尿病にならないことです。生活環境から変えていかなければいけないと思います。また、心臓病についても草津市では男性が低く、脳卒中も男も女も全国的に見て低く、比較的恵まれた地域といえますが、これも脳疾患を抱えて生活することは大変ですので、やはり、生活習慣病を予防し、元気で長生きできるまちをつくっていかねばいけないと思っておりますので、皆さん、御協力をよろしくお願いいたします。

(会長退席)

(副会長)

先ほどの施行細則の２条の４項に基づきまして、議事を進めさせていただきますので、皆さん、御協力をよろしくお願い申し上げます。

それでは、議事次第に従いまして次第５．草津市の健幸都市基本計画について、事務局から説明をお願いします。

事務局より草津市健幸都市基本計画概要版にて説明

(副会長)

「草津市健幸都市基本計画」について、何か御質問等ありましたらお願いします。御発言のある方は、挙手してください。

(委員)

すばらしい冊子ができており、健幸都市についても、昨年、耳にはしましたが、今後広く市民にどのように周知する予定ですか。

(事務局)

周知については、これからという段階ですが、今年９月１日号『広報くさつ』の特集号で、健

幸都市の取り組みについて周知をする予定と昨年に引き続き、9月24日に健幸都市くさつのシンポジウムとして、講演やパネルディスカッションを予定しております。

また、今年4月にオープンした草津川跡地の公園を健幸都市の拠点としても御活用いただけるようにイベントの企画をしており、7月22日には、子ども向けのイベント開催を計画しております。その後、9月、10月にイベントを予定しておりますので、御参加いただければと思います。

(委員)

話が変わるかもしれませんが、「de愛ひろば」に行く道は、この間一度見にいきましたが、道が細いですね。対向するのがぎりぎり、また、駐車場についても最初の1時間は無料だったので、ざっと見させてもらって帰りましたが、いいものができているので、市民の皆さんに行ってもらえるのだったら、もう少し道を広く整備するとか、駐車場を少し何とかしていただけたらよりいいかなと思いました。

(副会長)

いろいろ理解する上で、そういう整備も大変重要ですので、御意見として受けとめていただければありがたいと思います。他、いかがでしょうか。

(委員)

最近、ニュースか何かで、子どもが食事をしていない、食事できないような環境の子どもがたくさんいてまちづくりとして、子ども食堂などを計画しているのですが、草津には、そういう子どもたちがいるのか、情報はあるのですか。

(副会長)

その件につきましては、次第6、7で出てきますので、そのときにあわせて説明をお願いします。今は、草津市健幸都市基本計画そのものについての質問ですので、大変重要なことだと思いますが、次第6、7で、ふれていただければと思います。では、草津市健幸都市基本計画についての説明と、質疑は以上とします。

次に次第6、7をあわせて説明をお願いします。この協議会は、「健康くさつ21（第2次）」の中間評価が主な任務ですので、本日は、1回目ということでございますので、内容の理解、あるいは、課題をどう設定されているのかをきちんと理解したいと思っております。では、説明をお願いします。

次第6「健康くさつ21（第2次）」中間評価について、また次第7「第3次草津市食育推進計画の策定」及び「糖尿病対策ガイドライン第3期計画」について事務局より説明

(副会長)

資料3、4、5、6について説明いただきましたが、資料3で、中間評価に当たって、「健康くさつ21（第2次）」は、国の施策とどのような関係で位置づいているのか説明があった上で、第2次の理念と基本的方向についてのおさらいということで確認をいただきました。次に、資料4で、目標値や評価、現状の評価、課題について、それぞれ詳細について説明がありました。

その上で、資料5では、草津市食育推進計画について、これは食育推進計画策定委員会で審議されますが、この協議会にも関連することから、御意見をいただいています。頂戴した意見については、策定委員会で計画に反映していただくといった位置づけになっています。資料6の糖尿病の対策ガイドラインについては、当推進協議会で、「健康くさつ21（第2次）」の中間評価との整合性を図りつつ、内容の確定にあたって今後も取り扱いについて審議し、最終、年度内

に策定していくことになっています。

最初に子どもの食事についての質問をいただいておりますので、もう一度、簡単に御意見をいただいて、回答していただくことから始めたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

(委員)

先ほどの質問ですけど、市のほうでは、子どもの食事についてのデータがあると思いますが、子ども食堂の対象者がどのぐらいいるのか。社会問題として、大きな問題だと思いますので、各学校、各地域で対応をしていかないといけないと思いますが、ボランティアや、衛生面で非常に難しい課題もありますので、どのようにしてクリアしていくのか。市はどのような対応をするのか説明していただきたいと思います。

(事務局)

子どものことについての御質問ですが、子ども家庭部が所管となりますので、今、お尋ねいただいたどれぐらいの数のお子さんがおられるかについては、本日は何も持ち合わせておりませんので、お答えをさせていただくことができません。

そういった子どもの居場所として子ども家庭部が草津学区で実施していると聞いています。ひとり親家庭の子どもを対象に居場所づくりをしています。

(委員)

私は、志津南学区なので、現在、やっていません。考えてはいますが、これは地域性があり、今、市内では、常盤学区で民生委員の皆さんが、毎月1回、学年を問わず、希望者に全員集まってもらい、子ども広場をしています。先ほど市から紹介のあった「ゆかい家」は、子ども食堂のようなことを学区社協が取り組まれています。現在は、2学区ぐらいの状況だと思います。

(委員)

草津市社会福祉協議会ですが、子ども食堂の出発点は、貧困の子ども対策で、6人に1人、貧困家庭の子どもがいるといわれており、就学援助か何かの受給者ということですが、貧困の子どもであるから食を提供しようとする、差別を受けるということがあり、先進の東京なども実施したけれども、意図して対象の子どもを呼ぼうとしたが、対象者かどうか分からないが、口コミでたくさん来るようになったと聞いています。滋賀県でも、「縁^{えにし}」を中心にして、子ども食堂をつくろうと最初はそういった切り口で始めたけれども、今は、子どもを中心に、食を中心にした地域づくりというように、変わりつつあります。食事を一緒につくる、みんなでワイワイと集まる、昔のよき時代のような感じで、まちづくりをしていこうという取り組みになりつつあります。この取り組みは、これまでも教育委員会の事業の地域協働合校や、わんぱくプラザなどがもう少し発展するような取り組みを草津市として応援していただくと、非常にいいまちづくりになるのではないかと思います

(事務局)

質問の直接のお答えにはならないかも知れませんが、資料4の6ページをごらんいただきたいと思います。表の下の方に、3－2次世代の健康の取り組みの方針で、③朝食を食べない子どもの減少を目標にしている部分があります。ここで、朝食を食べておられない子ども、これは滋賀の栄養マップの調査で、およそ5年に1回の頻度で調査をされている数値を示したものですが、小学校5年生で、平成28年の現状、3.9%の方が、朝食を食べずに学校へ通っています。

また、中学2年生では、6.2%で、朝食を食べていないとの数字が出ていますので、朝食の必要性を啓発するとともに、保護者の大きな負担にならないような形で朝食を食べてもらえる仕組みが必要だと考えています。

また、1ページですが、共食の増加ということで、家族と一緒に食事をとるというアンケート

調査も滋賀の栄養マップの調査結果ですが、共食で家族と一緒に食べる日がない子どもは12歳から14歳で、27年現状値で16.3%が一人で食べているということになります。この数字から様々な施策を展開していかなければならないと考えております。

(委員)

目標などが、市民一人ひとりのライフステージに合った目標としづらいという感想をもちました。健康寿命の延伸と健康格差の縮小が、基本目標になっていますが、健康寿命の延伸の数値が出ていますが、この数値の出し方を詳しく教えてもらいたい。

(事務局)

健康寿命の数値が策定当時19.43、平成28年では19.71ですが、人口や死亡の数、一定の数字を厚生労働省の健康寿命のプログラムに入力し算出した数値になっていますが、0歳の時点でとったり、65歳の時点でとったりと、健康寿命は、いくつか算出方法があります。この数字は65歳の平均自立期間で、元気で動けるのを65歳としてあと平均して自立して動ける期間を数字として出しています。

(委員)

では、現状値の20.02は、どう見るのですか。65歳から20.02歳は健康でいられるという意味ですか。

(事務局)

そのとおりです。策定時19.43、現状で20.02というのは、65歳の方が、その後、自立して暮らせる期間を数値にしたものです。表に男性で81.64という数値がありますが、65歳から約20年自立していると、単純に計算しますと85歳までは自立かとなりますが、これを0歳の子どもが何歳まで自立できるのかという数字にすると、男性81.64、女性の84.13になるということで、単純に65歳に数値を足したものにはなっておりません。

(委員)

現状評価の欄を見れば、健康寿命で比較したら草津市は何歳までと書いてあるわけですね。このほうがわかりやすいですね。自分が何歳まで健康でいられるのかと書いたほうがわかりやすい。統計上は、健康というのは要介護2になるまでと評価している。だから、そういった基準が書かれていないと、その数値の出し方がわかりにくいと感想をもちました。

基本目標で、健康寿命の延伸と健康格差の縮小と書いていますが、健康寿命の延伸については、結果と評価が数値として出ていますが、健康格差の縮小については、何をもちて健康格差というのかがわからない。健康格差の縮小については、もう少しどこに健康格差があって、それをどうしたらいいのかというのが、明確にならないとだめじゃないかと思いますが、いかがでしょう。

(事務局)

まず、1点目について、今、委員から御指摘いただきましたように、資料4に載せています指標につきましては、この計画の策定時に指標としたものですが、やはりわかりにくいということで、今回の見直しに伴いまして、指標を、現状評価の欄の数値に置き換えてはどうかと考えております。この件については、この協議会で諮っていきたいと思っています。

2つ目ですが、健康格差の用語としては、健康くさつ21の冊子の76ページに、用語の説明として載せています。地域や社会経済状況の違いによる集団間の健康状態の差ということで、例えば、ご本人の経済状況により健康が守られないような状況で、不健康になっていかれるなど、集団の特性によって健康状態に差が出てくることとして掲載しています。

ただ、日常的に感じているのは、やはり健康に関心をお持ちの方は、健康的な取り組みを続け、さらに健康になる一方で、健康について関心をお持ちでない方は、健康づくりの取り組みの情報

も届きにくく、なかなか参加いただけない状況にあり、そういう方々に、どうやって健康づくりに取り組んでいただくかが健康格差の縮小では大切だと思います。実は、健康にも関心があるし、やりたいと思うけれども経済的なこともあり、子どもの話もそうですが、そこに取り組めない状況になっているので、このまま放置すればさらに格差が広がっていくので、そこへの取り組みも大事な内容だと思っています。

(委員)

大変難しいと思いますけども、経済状況と健康の相関関係がどこにもありません。分析していないし、またそれを分析しないとそれをどうするのだというアクションは起こらないと思います。

(委員)

この評価表の7ページの3と4、高齢者の健康の取り組みの方針というところを見ますと、評価が大分バツ、バツばかりなのですね。増加や減少など目標値が抽象的過ぎて、評価ができない。例えば、平成34年が目標ですが、平成30年にはここまで数値を上げるなどの形で、目標を設定しておいてくれないと、具体的アクションプランが立てられない。

それから、例えば、4番目に足腰の痛みのある高齢者の減少と言われたって、バツになっていますが、老人クラブを見ていると、それほどでもないし、みんな元気にグラウンドゴルフをやっていますよね。

高齢化すれば、確かに足腰が痛いのはあります。それが、本当に健康でないのかどうか、そのところはわかりませんよね。もうちょっと具体的に数値目標を立てていただきたいというのが一つ。それから、『草津市健幸都市基本計画』で健幸ポイントがありました。去年は、健幸ポイントPRを一生懸命やって、効果はあったと思います。継続して行くとありますが、現在、7月になるまで、健幸ポイントについてまったく聞いたことがない。恐らく継続しているのでしょうが、せっかく去年盛り上がった健幸ポイントを推進するならば、PRも忘れずにやってもらいたい。資料について、見ていて評価しにくい状態です。何を基準にして、評価をしたのか、高齢者の話も老人クラブの活動を含めて評価していただきたいと思いました。

(副会長)

1点目は、今後の評価にかかる点ですので、今後の議論に生かしていただけるかと思います。事務局から何かありましたら。

(事務局)

策定時の指標ですが、『健康くさつ21』の冊子の高齢者の健康になりますが、60ページ、61ページに少し説明を書いています。今回は、中間評価ということで、目標値について、平成34年の目標値に対して増加、減少を表示しています。設定は前回計画の作成時にしており、今回の中間評価で、より評価しやすい内容に見直していければと考えております。

健幸ポイントについては、去年と同様にPRしているところです。昨年同様チラシを作成し、各学区まちづくりセンターや公共施設に配布しております。また、ホームページ、広報に掲載するなどPRしておりますが、御意見をいただいたように、今後も啓発に力を入れたいと思います。

(委員)

非常に幅広い分野で、真面目にきちっと取り組まれていることに非常に驚いております。

一方で、何から何まで数値目標に重点を置き過ぎているのではないかと感じています。健康に関する指標は、非常に難しく、すぐ効果が出るものもあれば、そうではないものもあります。定義そのものが、非常に曖昧です。私も勤めていた時に担当していましたが、例えば、歯科健診を全員実施すると歯科の医療費が翌年は上がります。しかし、何年か後には、効果が出てきますが時間がかかる。会社は、お金をかけたのだから効果を出せと言う。また、例えば、たばこをやめ

禁煙すると、一時的には体重がふえて血圧も上がる、肝臓の数値もおかしくなるなど、いろいろな症状がでることがある。健康に関することは、全て数字で見るのは、無理があるなと感じています。

もう一つ、市民目線で見ると、非常に複雑でわかりにくい数字もたくさんあり過ぎると思います。もう少し重点を絞って、みんなが覚えられるという意味で特に最重点項目を3つか4つぐらいにしてはどうか。現状も目標もですが、定義をはっきりすることと数値はすべて必要ではないと思いますので、大事なところだけ焦点を絞って、数値目標にする考え方も大事だと思います。わかりやすい健康づくりの活動をしたいと思う次第です。

(副会長)

御意見をいただきましたが、それも承って、今後、どうしていくかについて、事務局いかがですか。

(事務局)

今回の見直しの中で、当会議での意見を踏まえていきたいと考えておりますので、さらに検討をお願いしたいと思っています。

(委員)

この評価表を見たときに、どうしても○、△、×に目が行きます。そこを見ると、がん検診や病気等について市町19位の現在何位という表示がありますが、同じように数字が悪くても、○や◎となっています。どういう判断をすると、19位中14位が○、19位中15位が◎となるのかわからない。順位が悪いのに評価は良いとか、順位が良いのは良いなど混じっていて、○×を見て達成していると感じはしますが、評価の仕方が分かりにくいと思います。また、自分の活動に一番関係のある健康推進員の増加で、策定時の数値が平成23年で185人、平成28年現在で180人、目標値が266人とありますが、目標値が、毎年10人プラスして算出しており、平成34年には、260人になっています。ただ、健康推進員は、毎年15人前後の方が養成講座を受けてもらいますが、その反対に15人ぐらい御事情があって辞めています。そのため、プラスマイナスして少しずつプラスにはなっていますが、この目標達成は困難であると、以前から感じていましたので検討をお願いしたいと思っています。本当に健康推進員を30年くらいしている方もおられ、高齢化してきている面もあります。若い方にぜひ入っていただきたいと思いながら、公募で養成講座を受けていただいていますが少ない状況です。近頃は、男性会員が増えてきているので、男性の方でボランティアに興味がある方は、ぜひ健康推進員になっていただいて、一緒に活動していけたらいいなと思っています。

(副会長)

表の見方について、事務局から説明いただけますか。

(事務局)

資料4の初め、1ページの右上に目標値からの評価ということで、◎が目標達成できたもの、○が改善傾向にあるもの、△が策定時と比較はできないが、現状で目標値を達成できていない。×は悪化している、と判断しておりますので、同じ順位であっても変わってくるものがあります。御理解いただきたいと思います。健康推進員の人数等に関しては、相談させていただきたいと思います。

(副会長)

現状値が改善し、目標達成していたら◎ということですね。疾病の死亡者の評価は、順位が逆になっているので、より見にくい。私も最初見にくいなと思ったのですが、よくよく見るとわかりました。

(委員)

地域で、今、健康推進員に、ボランティアとして色々なかかわりをつくっていただいておりますが、個人的には、今言われた地域のつながりについて、民生委員としてはサロンや居場所づくりが活発になってきているように思うのですが、目標を達成していない。これよりもっとつながりをふやさないといけないのかと思ったり、高齢者が高齢者をみるというような高齢化した地域では、閉じこもりをいかに減らそうかとか、サロンへのお誘いや、食事会をしたりしていますが今後も頑張ります。

(副会長)

力強い御発言をありがとうございます。他に質問等はよろしいですか。

内容が、かなり詳細に渡っておりますし、その内容の理解にかかわって、今後の協議会で、評価そのものについて中間評価することになりますから、今回は、現状評価と課題を書かれているということですが、この内容についても含めて2回目の協議会でも意見をいただくということになると思います。その上で、評価をどうするかということになるかと思えます。

内容の理解にかかわって、質問等がありましたら、事務局に質問いただいて、詳細に渡っては、委員の方々に事務局に確認いただくと大変ありがたいと思っております。

まだ質問等あるとは思いますが、本日は中間評価、課題の設定等の内容の理解を図らせていただいたということで御理解いただきたいと思います。続いて、今後のスケジュールについて説明をお願いします。

次第8. について事務局より説明。

(副会長)

では、第2回目の協議会で、中間評価素案が出てまいりますので、次回、それから、第3回目も引き続き、中間評価素案に基づいて協議をしていただくことになります。

食育推進計画については、食育推進計画策定委員会で、議論していただきますし、糖尿病のガイドラインは、庁内で議論を進めていただくということで、また報告いただくことになりますので、よろしくお願いいたします。

その他、何かございますか。何か言い忘れたことなどよろしいでしょうか。

これで平成29年度の第1回の草津市健康づくり推進協議会を終了いたしたいと思えます。

司会を事務局へお返しいたします。

(事務局)

ありがとうございました。今後とも、皆さん、どうぞよろしくお願い申し上げます。